

RACE 2016 AUTOBACS SUPER GT Round7 『BURIRAM SUPER GT RACE』
 DATE 予選：2016年10月8日 決勝：2016年10月9日
 CIRCUIT (タイ・プリラム県)
 WEATHER 予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ
 RESULT 予選：12位 決勝：10位

10月8、9日にタイ・プリラム県に位置するチャン・インターナショナル・サーキットにおいて、SUPER GT 第7戦「BURIRAM SUPER GT RACE」が開催され、強い日差しと高い湿度の中、TEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは粘り強く66周に渡る戦いに挑み、10位入賞を果たすこととなった。



日本を離れ、タイへと戦いの舞台が移る今回。No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTにとって、最終戦のもてぎで迎える2戦（うち1戦は第3戦オートポリス代替戦となる）を前に、何ともしもいい流れを作りたいところ。昨年は6月開催で、猛烈な暑さの中での一戦となったが、今回は雨季ということもあってか、レースウィークのはじめは、薄曇りや雨という不安定なコンディションに見舞われた。

予選日前夜には本降りの雨となり、朝の公式練習はコースの一部がまだセミウェット状態。その中で、伊沢拓也、山本尚貴両選手は持ち込みのセットアップを確認、まずまずの手応えを得ることとなった。だが、時間の経過とともにタイムアップを果たすライバルとは異なり、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは小刻みにベストタイム更新を続ける形に。午後からのタイムアタックに向けて、再度見直しを重ねることになった。

◎ 予選：

朝のセッションでは気温が31度、路面温度に至っては37度まで上昇したコースだが、午後3時から始まるGT300のノックアウト予選・Q1直前に、ぱらりと雨が落ちるなど、曇り空が先行するコンディションへと変化。GT500のQ1は気温28度、路面温度34度の中で幕を開けた。

No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのステアリングを握ったのは、伊沢選手。公式練習で微調整を重ねたクルマでのアタックだったが、思うようなタイムアップに繋がらなかったのか、刻んだタイム1分25秒256は12番手止まりに。結果、残念ながらQ2への進出は果たせなかった。

「朝の公式練習では、さほどタイムも出なかったし、フィーリングもあまり良くなかったんです。微調整を続けたんですが、自分自身も予選に向けてうまく方向性を導くことができなかつたですね。また、予選自体も特にミスしたわけではないですが、結果としてタイムには繋がらなかったですね。速さを引き出せなかつたです」と朝からの様子を振り返った伊沢選手。「正直いい流れではなかつたので、Q1でなんとか自分の力で流れを変えたかったんですが…。そこまで行かなかつたですね。悔しい結果です。決勝ではなんとかいい走りを取り返したいですね」と諦めない姿勢を見せてくれた。



一方、山本選手は「朝のセッションでは、走りはじめの状態で、さほど調子が悪いとは思っていませんでした」と状況を振り返った。しかし、周回を重ねるごとに、次第にチームとして“足りないところ”を感じ始めるようになったという。「予選でいいところを狙っていけるかなと思っていたのですが、時間が進むにつれ、周りのタイムが上がってきたのに対し、僕たちはスピードアップすることができませんでした」。

セッティングも色々トライしたというが、タイヤが路面状況に合っておらず、仮にセット変更しても、その内容の良し悪しを判断することが難しいという状況で、不安要素を抱えた中での予選だったことがわかった。結果的に、12番手という予選ポジション、そして、事前のエンジン置換によるペナルティ（5秒のピットストップ）もあって、厳しい条件でのスタートを迎えるNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTだが、「天候も不安定な感じだし、何かあるかわからない。最後まで諦めずがんばります」という山本選手のコメント通り、不屈の精神で決勝に挑むことになった。

◎ 決勝：

レースウィーク一番の暑さとなった決勝日。照りつける日差しの中、気温32度、路面温度39度のコンディションで朝のフリー走行がスタートした。前日、予選後にミーティングを重ねたチームでは、大幅にセットアップを変更。まずその確認から取り組むこととなった。

伊沢選手、山本選手とも1分27秒後半のタイムを刻み、ポジションは14番手と、前日からの大きな違いはないように思われたが、実のところ、セットアップの方向性を変えたことでクルマは激変。見合うタイヤを装着できなかったため、好タイムこそ刻めなかったが、ドライバー、そしてチームはNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTがレースで力走できる仕上がりになったことをしっかり確認。決勝に向けて明るい材料を入手した。

午後に入ってから強い日差しは健在で、まったく雨の心配もない状態。スタート直前の気温は33度とさほど変化はなかったが、一方で路面温度は44度まで上昇。タフなコンディションの中、66週の戦いが幕を開けた。



No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのスタートドライバーを務めたのは、伊沢選手。TEAM KUNIMITSUで山本選手・伊沢選手とコンビを再結成してからは、初のスタート担当となる。まず、オープニングラップを11位で終え、その後、事前に決まっていたエンジン置換によるドライブスルーペナルティを6周終わりで消化。ここから本格的な追い上げを開始した。着実な走り続ける伊沢選手。チームとして、早めのピットインも考えていたというが、ステイント中には1分26秒516と好タイムをマークする快走を見せ、結果的に32周を終えた時点でルーティンワークを実施。山本選手へのスイッチ、タイヤ交換と燃料補給を行い、後半の戦いに挑むこととなった。

ステアリングを受け取った山本選手。周回遅れのGT300を巻き込んだ激しいコース上の争いはもちろん、荒れていく路面コンディションの中でも、安定した速さを披露。力強い攻めの走りでポジションアップを狙っていく。ライバル達もこのあとピットインを行い、後半戦のバトルへと突入した。レースはその後、GT300を巻き込んだ接触やクラッシュ車輛によるFRO車輛導入など、落ち着きのない展開へと変わったが、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはペース良く周回を重ね、レース終盤へと向かっていく。

そして迎えた66周終了のチェッカー。なお、山本選手は、64周目に1分25秒833のファステストラップをマーク！タフな戦いの中、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTが強さと速さの双方を兼ね備えたクルマであることをしかとアピールしている。なお、11位でチェッカーを受けたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTだが、レース後にペナルティ加算を受けた車両がいたことにより、10位に浮上。貴重なポイントを計上することに成功した。



残すところ、もてぎでの2戦のみとなった今年のSUPER GT。今回のタイ戦で得た流れを活かし、再び表彰台獲得を目指した戦いへと挑む。



◎ 高橋国光総監督

いい走りをふたりのドライバーが見せてくれました。予選が終わった時点で厳しい戦いになると思われましたが、それからドライバー、エンジニアがミーティングを行ない、いいクルマへと仕上げてくれました。苦しい状況でも、さらに上を目指してがんばった結果、ドライバーもチームもさらにステップアップできた証だと思えます。本当によく頑張ってくれました。

◎山本尚貴選手

今朝、エンジニアと色々やりとりを重ねる中でひとつひらめいたことがありました。それを実行したところ、かなり良くなりました。決勝に向けてもう少し手を加えることになり、その結果、クルマはこの週末一番いいものになりました。それ以上に、今年に入り、一番ちゃんと走れたなというところまで持っていくことができました。車体に限らず、タイヤのピックアップなどもなく、本当に最後の最後まで100%プッシュしてレースを終えることができました。もてぎに繋がるいいレースができたかと思うし、ファステストラップをとって、ポイント1点（入賞）も取れたということは、少なからずともみんなのモチベーションを保てたのかなって思います。非常にいいレースができました。



◎伊沢拓也選手

予選までは流れもフィーリングも決して良いとはいええない状態でした。でも、決勝はすごくクルマの調子が良かったですね。（エンジン交換による）ペナルティストップもありましたが、（レース後、10位が確定し）最後に1ポイント取れたし、山本選手もファステストラップを取ったし、ちゃんとここまでクルマがいい状態になったというのは、僕らとしてはとても大きな手応えにつながると思います。もてぎは2戦あるので、この勢いを大事にいい戦いにもっていきたいですね。

最終戦は11月12～13日に栃木県・ツインリンクもてぎにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。